

まほうのめがね

日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」第2065号
(2009年6月24日発行)より

おかあさんは、まいにちのように、こどもを、しかってしまいます。

どうして、こんなこともできないの？
… もっとはやくしなさい！… なんどいったら、わかるの！…

そのたびに、こどもは、しょぼんとします。ときには、なみだをいっぱいのために、おかあさんのあとを、とぼとぼとついてきます。

そんなようすをみると、おかあさんも、こころのなかがちくつといたむのですが、つぎのひになると、こどもは、おなじことをくりかえします。おかあさんも、ついつい、どなってしまい、おなじことのくりかえし…。

そのひもまた、おかあさんは、こどもがでかけるときに、はやくしなさい！とどなってしまいました。ためいきをつきながら、げんかんのドアをしめようとしたおかあさんは、あしもとに、なにかあるのにきがつきました。それはおもちゃのめがねでした。

あのこったら、またこんなところに、おもちゃを…。いいながら、めがねをひろおうとしたおかあさんは、おもわず、てをとめました。めがねのグラスが、きらきらと、ひかってみえたからです。おかあさんは、そっと、めがねを、じぶんのめのまえに、もってきました。ちいさなめがねは、もう、おかあさんには、かけることが、できませんでしたから、そっとこわれないようにもって、ひにかざしてみたのです。

そこには、きらきらのひかりがあふれていました。せかいじゅうが、ひかりであふれていました。

おかあさんは、めがねをめのまえにかざしたまま、ぐるりと、あたりをみまわしてみました。すると、まわりじゅうも、きらきらと、ひかりであふれているのがわかりました。

きらきら…。きらきら…。きらきら…。
なにかもが、ほうせきのようにひかっているのです。そう…。せかいは、ひかりで、できていました。なにかもが、ひかりで、できていました。まっすぐにまえをみれば、どこまでも、どこまでもつづく、ひかりのみち…。

きがつくと、おかあさんは、ないていま

した。ずっとずっとずーっとむかし、じぶんも、こんなけしきを見たことがあることをおもいだしたからです。

あんなにすきだったのに…。いつまでもいつまでもあきることなくながめていたはずなのに…。どうして、わすれていたんだらう。どうして、みえなくなってしまうんだらう…。

おかあさんは、あふれてくるなみだをぬぐうこともわすれて、なみだをながしつづけました。

ただいま。こどものこえがしました。きがつくと、おかあさんは、ぼんやりと、げんかんにすわっているのです。いつのまにか、こどもがかえってくるじかんになっていました。てもとをみると、あのめがねが、みあたりません。えっ？とおもって、あたりをみまわしましたが、やはりどこにもありません。

おかあさん、ただいま！
もういちど、こどものこえがしました。おかあさんは、あわてて、ドアをあけました。そして、こどものかおをみて、あっと、こえをあげそうになりました。こどもが、あのまほうのめがねをかけて、そこにたっていたからです。
…いえ。そうおもったのは、いっしゅん

のことで、こどもは、いつものように、そこにいるだけです。めがねなんて、かけてはいませんでした。

でも、おかあさんにはわかりました。あのまほうのめがねは…。

おかあさんが、なにもいわずにいるので、こどもは、もじもじといました。

ぼく、みちくさしないで、ちゃんとかえってきたよ。

おかあさんは、もうたまらなくなって、こどもを、ぎゅっと、だきしめました。

だきしめたまま、こころのなかで、なんどもなんども、くりかえしました。

だいすき、だいすき、だいすき…。
すると、こどもも、ぎゅううっと、おかあさんをだきしめました。

だいすき、だいすき、だいすき…。
なにもいわなくても、こどもが、そういつているのがわかりました。

そして、それだけでもう、おかあさんにはじゅうぶんなのです。

●まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、2003年11月1日創刊以来完全連続発行。講読は「かめわざ快心塾」まで。3秒で読める携帯版もあり♪

<http://kamewaza.com/>